

9月16日～30日の国内外外国為替市場動向

	為替市況	主要経済指標など	主要発言など	為替レート		
				ドル円	ユーロ円	24H
07/09/17 (月)	東京休場となったアジアだが、逆に薄商いのなか円高進行。夕方の欧州株安が信用リスク再燃をさせた。欧米は米経済指標は弱い内容となったが米株が下がらずにドルは小じっかり、ポンドが冴えない。	・9月NY州製造業業績指数14.7	・英財務相「ノーザンロックの危機打開にあらゆる選択肢を検討」 ・前FRB議長「米リセッションの確率は3分の1をやや下回る」 ・米財務長官「市場の混乱、しばらく続く見通し」	115.25 115.38 114.66 115.12	159.74 160.16 159.02 159.65	寄付 安値 高値 終値
07/09/18 (火)	東京は欧州緊急利下げの噂などからユーロを中心に対ドルでも円高進行。ユーロ/円は1円以上下落。欧米は米国の0.5%利下げを逆に好感。米株価が急騰したことなどから結果的に円は独歩安商況。	・9月の独ZEW景況感指数 18.1 ・8月の米PPIは 1.4%、7月の対米長期証券投資192億ドルの資金流入 ・FOMCで0.5%の利下げ実施、また声明には「追加利下げ」を示唆するコメント	・豪州系銀行が資金調達に困難になっているとの噂、その後豪州中銀が噂を否定 ・独仏共同で緊急会見、ECB緊急利下げ実施--などの噂あり	115.03 116.39 114.79 116.10	159.51 162.56 158.80 162.35	寄付 安値 高値 終値
07/09/19 (水)	東京は円売りが先行し一時116円台を示現するも、福井発言などを受けて結局行って来い。欧米のドル/円相場などは揉み合い。そうしたなか中銀議事録失望からポンドが終日弱含み。	・日銀が金利据え置きを決定 ・9月日銀金融月報で判断据え置き ・9月のBOE議事録要旨「全会一致で金利据え置き決定」 ・8月の米CPIは 0.1%、同住宅着工133.1万戸	・福井日銀総裁「現在の金利水準は相当低い」 ・独経済相「連銀の利下げはドル安を意味する可能性がある」 ・オーストラリア中銀総裁「ユーロの急激な動きは歓迎せず」	115.75 116.33 115.66 116.09	161.77 162.45 161.38 162.04	寄付 安値 高値 終値
07/09/20 (木)	東京は調整的な動きもありドル弱含み。とくにユーロ/ドルは1.40ドルをはじめて上げた。欧米はドル安でスタートするもユーロ圏利下げ観測などから流れが反転。結果として円が小じっかり。	・ピントラディン氏がバキスタンを宣戦布告 ・複数英系金融機関がBOEに資金支援要請の噂あり ・8月の米景気先行指数 0.6%、9月FF連銀景気指数10.9 ・サウジがドルペッグ制度廃止の噂	・日銀総裁「金融政策は経済物価の改善度合いに応じて適切に実施」 ・津田財務次官「サブプライム問題、G7でも議論になる」 ・FRB議長「混乱は信用を逼迫」 ・ユーロ圏利下げの噂	115.97 116.01 113.98 114.75	162.06 162.40 160.69 161.40	寄付 安値 高値 終値
07/09/21 (金)	東京は需給要因などに押され円高全面安の様相。ユーロ/円は一時1円近い上昇を見せた。欧米は円が統落、ユーロ高の懸念など気掛かりな発言少なくなかったが影響は限定的なものに。	・7月の全産業活動指数 0.4%	・周人民銀総裁「中国は米利下げの制約を受けない」 ・篠原財務官「サブプライムにともなう混乱、来年4月のG7にかけ議論」 ・仏経財相「ECBは来月の理事会でユーロ高を協議すべき」	114.94 115.86 114.62 115.50	161.71 162.84 161.58 162.74	寄付 安値 高値 終値
07/09/24 (月)	東京休場でアジアタイムは総じて小動き。ただドルに対する利益確定売りが目立ち、ドルは小幅安。欧米は引き続きドルが冴えない、ユーロ高率制発言はボジティブながら、信用収縮リスクがドルの足かせに。	・10月G7でユーロ高が議題になるとの噂	・IMF専務理事「信用収縮は2008年にもっとも大きくなる可能性」 ・ルクセンブルグ首相「過度の変動を歓迎しない」 ・IMF「信用市場の混乱、長期化する可能性が高い」	115.27 115.28 114.65 114.87	162.44 162.56 161.51 161.79	寄付 安値 高値 終値
07/09/25 (火)	東京はユーロ高の償還など需給要因から円買い優勢。また複数英紙の報道も間接的ながら円買いに寄与。欧米はイランに絡む報道に加えGMストが嫌気されドル売り優勢。ただ終盤は本邦証券に絡む噂で持ち直し。	・8月日銀決定会合要旨発表 ・9月の独IFO景況指数104.2 ・米自動車GMが全面ストへ ・8月の米中古住宅販売550万戸、9月の米消費者信頼感指数99.8 ・本邦証券にCDSデフォルトの噂	・英インディペンデント紙「英国預金スキームの基金残金は440万ポンド」 ・英FT紙「G7では独が率先してユーロ高の協議を進める」 ・イラン石油省「日本の石油会社も円での支払いを始めている」	114.85 114.88 114.03 114.79	161.65 162.42 161.02 162.29	寄付 安値 高値 終値
07/09/26 (水)	東京は月末に向けた外貨建て投信の設定などに絡む動きから円が弱含み。とくにクロスで冴えない。欧米は円が大幅統落。GMスト解決などを受け米株が急騰。好感した円売り優勢で、クロスを含め安値引け。	・8月の貿易収支7432.38億円 ・第2四半期英GDP確定値0.8% ・8月の米耐久財受注 4.9% ・GMのストが解決 ・ハフィット氏による「アスターズ」買収観測浮上	・FF連銀総裁「FRBは利下げをしたがインフル警戒は解いていない」 ・サウジがドルペッグ制度廃止の噂、中銀がその後否定 ・独経済相「強いユーロは弱いユーロよりも好ましい」	114.61 115.75 114.59 115.55	162.15 163.44 162.12 163.25	寄付 安値 高値 終値
07/09/27 (木)	東京は日経平均が400円近い上昇を辿ったことを受け円売り優勢。須田発言の影響は限定的なものに。欧米は発表された米経済指標をめぐり右往左往。数字自体は悪かったが織り込み済みでドル売り進まず。	・9月の独失業率 5万人、同失業率8.8% ・第2四半期の米GDP確定値3.8%、同個人消費確定値1.4%、同コアPCE価格指数確定値1.4%、8月の米新規住宅販売79.5万戸	・須田日銀委員「あまりゆっくり金融調整行なうと経済過熱リスク高まる」 ・OECD報告書「英経済に減速リスク、利下げが必要になる可能性も」 ・ECB総裁「為替市場の過度の変動は成長の阻害要因」	115.44 115.89 115.12 115.62	163.11 163.98 163.06 163.64	寄付 安値 高値 終値
07/09/28 (金)	東京は中間期末という要因もあってか仲値を含めてドル売り優勢。ドル/円は114円台へ。欧米は引き続きドルが冴えない。米利下げ観測再燃に米要人発言が加わりドルは安値引け。	・8月消費者物価指数 0.2%、同完全失業率3.8% ・8月の米個人所得0.3%、同個人支出0.6%、同コアPCE0.1%、同建設支出0.2%、9月のシカゴPMIは54.2、同シカゴ大消費者信頼感指数83.4	・アルムニア欧州委員「ドルの下落を懸念している」 ・SL連銀総裁「市場はさらなる利下げを期待すべきでない」 ・前FRB議長「景気後退の確率、50%未満ながら高まった」	115.55 115.61 114.67 114.83	163.58 163.87 162.69 163.83	寄付 安値 高値 終値

* 製作・著作；「FXニューズレター」

URL； <http://www.fx-newsletter.com/>